

15. 妊娠,分娩および産じょく (O321)

文献

中野朋儀、齋藤和彦、木内敦夫. 骨盤位矯正における鍼灸治療の効果についての報告. 栃木県母性衛生学会雑誌とちば 2018; 45: 8-9. 医中誌 Web ID: 2019215425

1. 目的

骨盤位矯正について鍼灸治療と自然回転による胎位矯正の違いを検討。

2. 研究デザイン

後ろ向きコホート研究

3. セッティング

アルテミス宇都宮クリニック、栃木、日本

4. 参加者

妊娠 31 週から 36 週の時点で骨盤位と診断された妊産婦 100 例

5. 介入

Arm 1: A 群 44 例 (鍼灸治療希望した患者: 至陰に銀粒→湧泉に温灸→三陰交に灸頭鍼→仙骨部に灸頭鍼→側臥位安静 10 分。鍼灸治療は 1 回で終了し、自宅での至陰の施灸・三陰交の筒灸・臍部の温熱と逆子体操を指導。)

Arm 2: C 群 56 例 (鍼灸治療を希望しなかった患者)

6. 主な評価項目

胎位矯正率、背景因子。

7. 主な結果

A 群の年齢平均 30.5 歳±5.5(SD)、C 群 32.0±5.4。年齢、身長、体重に有意差なし。矯正率 (骨盤位が頭位になった) は、A 群 12 例 (27%)、C 群 38 例 (68%) で有意差なし。

8. 結論・意義

A 群でむしろ矯正率が低く、この鍼灸治療による矯正率は、今まで報告されている結果 (矯正率約 89.9%) より低かった。

9. 鍼灸医学的言及

今回の鍼灸治療は 1 回で終了し、自宅施灸と温熱刺激を 10 日間行ったが、通常の治療は 28~38 週までの期間に数回の治療を続けることが多い。治療方法と治療回数に差があることが (先行研究の成績と異なる) 原因の可能性が考えられる。効果を増すためには持続的な鍼灸治療が必要なかもしれない。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

至陰穴の施灸を主とした骨盤位の鍼灸治療は有名であり、コクラン・レビューでも良質のランダム化比較試験 (RCT) が将来行われる必要があるとしながらも一部肯定的な結論を含んでいる。しかし RCT 全体を見ても成績は分かれており、どのような条件がそろった場合に好成績が得られるのかは不明である。ただ、成功例ではもっと来診によるフォローと鍼灸治療の回数が多いという印象はある。妊娠週数が遅くて骨盤位が持続していれば矯正成功率は低いので、せめて各群の妊娠週別のデータを示してほしかった。また、A 群すなわち鍼灸治療を希望した妊婦はすでに幾つかの矯正手段を試して失敗していたからこそ鍼灸治療を希望した可能性があるため、すでに受けた治療についても各群のデータが見たい。いずれにしても後ろ向きの症例分析を行った場合は詳細な背景因子の提示が必要であり、本報告論文の記載内容からこれ以上の推察をすることは難しい。しかし、自然経過による胎位矯正の割合を考慮に入れて逆子矯正率の解釈をすることの重要性を改めて伝えてくれている論文である。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.12